INTERVIEW　大会の魅力「おもてなし」を支えるチカラ

完走者対応ボランティア
中村 藍梨さん（13）咲之介さん（9）三郷明盛

ランナーとの爽やかな ふれあい求めて

完走賞のお米を袋詰めして、ランナーに手渡すボランティアに参加しました。5500 個のお米を一つ一つ袋に入れてリンゴコンテナに並べるのが大変でしたが、他の皆さんと声を掛け合いながら協力してできました。
完走したランナーの皆さんに手渡すたびに「ありがとう」と爽やかに応えてくれたので温かい気持ちになりました。ボランティアをするのは本年で３年連続。スタッフもボランティアも心を一つにしてランナーを迎え、触れ合えるのがこの大会の魅力です。今後も４回目、５回目と続けて参加していきたいです。

JA あづみ女性部 部長
手塚 富喜子さん（73）豊科高家

ランナーの笑顔のために 心の込もったおにぎりを握る

フィニッシュ後に振る舞われる 6300 個のおにぎりは、JA あづみ女性部と豊科女性交流センター運営協議会の皆さんが早朝から一つ一つ握っています。この手作りのおにぎりは、信州安曇野ハーフマラソンの人気の一つとなっています。今大会 3500 個を握った JA あづみ女性部の手塚さんに話を聞きました。

大会当日の朝、４時30分に炊飯器のスイッチを入れ、５時30分から部員と職員 38 人で握りました。炊き立てのご飯は熱くて大変ですが、８時50分スタートのファミリーランの皆さんがフィニッシュするまでに作り終えるために分担を決めて効率的に進めます。作り終えた後は、会場で完走した皆さんにおにぎりを手渡します。その時に見る笑顔にいつも元気をもらっています。おにぎりと一緒に作っているねぎ味噌も、毎回喜んでもらえるので、朝早くからでも頑張れます。

1

前日から始まる 安曇野時間

スポーツ フェスティバル 2026

2

おもてなしを感じる安曇野時間は前日から始まっています。本年で4年目をを迎える安曇野スポーツフェスティバルは、ランナーや大会を支える皆さんなどに安曇野とスポーツの魅力を感じてもらおうと開かれています。会場のANCアリーナには約1000人の親子やランナーが訪れました。

当日は、ケロポンズのオープニングでスタート。大会ゲストの有森裕子さんと三津家貴也さんのトークショーや有森さんのランニングクリニック、篠原信一さんも加わり、ゲスト3人による抽選会で盛り上がりました。また、芝生広場では、松本大学の学生によるニュースポーツ体験やパンフェスなどが行われ、参加者は思い思いの時間を過ごしていました。

有森さんはトークショーで「この大会は人も空気も澄んでいて軽快に走れる。走ることでいつも見過ごしてしまう景色をゆっくり楽しめる。それを一番意識できるのが信州安曇野ハーフマラソン」と魅力を語りました。

トークを聞いた黒田泰孝さん（53・豊科）は「有森さんと三津家さんからアドバイスをもらえた。初めて参加する大会前日に、ためになる時間を過ごせた」と翌日を楽しみにしていました。

5

4

3

7

6

写真　①⑦ケロポンズと一緒に体を動かす。②ゲスト3人と抽選会で盛り上がる③ランニングクリニック④モルックにチャレンジ⑤パンフェス⑥芝生広場でスポーツ体験

だからまた帰ってきたくなる

爽やかな空気とおもなてしの心――。大会コンセプトの「安曇野 FUN RUN ～安曇野流おもてなし～」が第１回大会から少しずつつながり、形になり、「また来たい」を作り出しているのかもしれません。信州安曇野ハーフマラソンは人の温かさでできている大会。また来年もお会いしましょう！